

第二節 『七祖法宝記』

方廣錫氏主編になる『藏外仏教文献 第二輯』に掲載された敦煌文献「殷三八号」および「北京新本一二七二号」からなる『七祖法宝記 下巻』「藏外 2 p.134f.」は大正大藏經第八五巻に含まれる『諸経要抄』[T.85.1190c.1]の別写本であることが判明した。早速その資料を用いてテキストの校合を行ない、あわせていくつかの問題点を明らかにしておきたいと思う。

一、テキストについて

校訂者の華方田氏によると、今回新たに発表された『七祖法宝記』下巻は、北京図書館藏敦煌本「殷三八号」と「北京新本一二七二号」からなる。両者は紙質、字体、内容などの諸方面から判断して本来同一の卷子本であったとされる。

現存文献のうち殷三十八号本は卷子本で首欠である。『仏藏經諸法実相品第一』の引用（これは『仏藏經』の冒頭でもある）から始まる文献の右側には白紙が貼り付けてある。右を上にして貼りつけるのは卷子本の正しい貼りつけ方であるが、左側の紙に書かれた出だしの部分の文字の一部が下にもぐった形になっているのは補修が後から行なわれたことを示している。

ただ、第一紙は白紙であることや文頭が『仏藏經』の首部であることなどからして、これがこの写本の首部である可能性は高い。とすれば、これと他の写本によって『諸経要抄』の全体像が確定することになるのである。

第三紙の尾部は糊がはずれてそれ以後の部分が脱落したらしい形跡を残している。

第二紙、第三紙の様子は縦二十五センチ、横四十二センチ、それぞれ三十九行と三十八行で一行は三十三字から三十八字の間である。現本は七十七行を保存している。

特に文頭の傷みが激しく欠落のため一部判読困難であるが、現存するものは前から順に『仏藏經諸法実相品第一』、『仏藏經念仏

品』『仏藏經念法品』『仏藏經』『念誦經護法普通諸部』『般若波羅蜜多心經』『金剛三昧經真空品第六』『大般若經魔愁品』『仏藏品』『金剛經』『仏藏品』『維摩經』『法華經』『金剛經』『入仏境界經』『楞伽經』『思益經』が連続して引用されている。引用の仕方は比較的正確であるが、途中を省略して要録している場合が多い。

一方、大谷写本(これは写本の形状は全く異なる)を挟んでつながるかたちの「北京新本一二七二号」は都合四紙からなり、縦の長さは「殷三十八号」に同じで、横は順に二十九センチ(前半断欠)、四十三センチ、四十三センチ、そして二十センチとなっている。

つなぎ方は第二紙から第三紙の継ぎ目はその上に字が書かれているから問題はないが、第一紙から第二紙、また第三紙から第四紙の継ぎ目は共に左側の字が下敷きになって一部が隠れているから後から貼り直したものかと思われる。全部が残っている二紙と三紙はそれぞれ四十一行と四十四行で、一行に三十二字から四十三行までばらつきがある。

前半の殷三八号本と後半の北新一二七二号本の間には断欠があるが、後に示すようにそれを大谷大学蔵本が補う形となる。現本は百二十六行を保存する。

その北新本の内容は、再び『金剛三昧經無相法品第二』の部分的な引用から始まり、それは同じく『金剛三昧經』の「無生行品第三」、「本覚利品第四」、「入實際品第五」、さらに「真性空品第六」とつづいている。つまり『金剛三昧經』のほぼ全体から長部に渡って引用しているのである。続いて『文殊師利所説般若波羅蜜經』『決定毘尼經』さらに経名不明の経典からの引用文がある。

これらの引用はいずれも大部で、現存する後半部の写本、つまり北新一二七二号のおよそ八割近くを占める。ただし、その引用の仕方は要文を適宜に撮要する手法である。その具体例の一端を後に掲載する校訂文の冒頭部分に記しておいた。

注目すべきはその後、つまり後半部分の九十三行目中程に『諸経大乘要抄』と記されていることである。この点については後に考えるとして、テキストの概観を先に述べるならば、この題名と思しき名前に続いて、『楞伽經』『金剛經』『思益經』『楞伽經』『法句經』『金剛三昧經』『思益經』『維摩經』『転女身經』『決定毘尼經』『葉師經』『大仏頂經』『仏藏經』『大仏頂經』『法句經』『金剛三昧經』『維摩經』『楞伽經』『思益經』『楞伽經』が引用される。これらの経典引用の形式はいずれも短く、前とは様相がかなり異なっ

ている。なお、『大仏頂経』と『法句経』の引用の間に、挿入句がある。

末尾には『七祖法宝記』の尾題があつてそこで完結している。

ところで、『諸経大乘要抄』という書き込み以下末尾に到る部分は、『歴代法宝記』と比較すると、その順序は違うけれども、全く同じ文章であることが判明した。つまり『諸経大乘要抄』以下『七祖法宝記』の間は、『歴代法宝記』の異本であるから、それらのテキスト相互の成立史や題名に関する問題が生じるのである。

さらにその後ろの空白部分には四字三行にわたる四角形の蔵書印が押されている。これは「抱残翁壬戌歲新得敦煌古籍」と読める。これは北京本敦煌文献の蒐集と整理に深く関わった羅振玉の私蔵する敦煌文献蔵書印であることも同時に知り得た。(2)ここに記される「壬戌歲」とは一九二二年に当たるが、この写本がこの時に既に存在したのかどうかについては疑問とすべき点がある。そのこともあわせて次節で考えることにする。

ここではまず大谷大学本との校合を試みておこう。なお、テキストの大部分は經典の引用であり、「蔵外 2 p.134ff」に所収されるテキストには該当する經典の所在を丹念に調査してその該当部分が逐一記されている。今、便宜的に經典の引用毎に番号をふつて整理をすると、

北京本(殷三八号)

大谷大学蔵本

(首欠)

(首欠)

[1] 『仏藏経諸法実相品第一』

(1) (途中から始まる。欠如部分多い)

[2] 『仏藏経念仏品』

(2)

[3] 『仏藏経念法品』

(3)

[4] 『仏藏経』

(4)

- [5] 『念誦經護法普通諸部』
- [6] 『般若波羅蜜多心經』
- [7] 『金剛三昧經真性空品第六』
- [8] 『大般若經魔愁品』
- [9] 『仏藏品』
- [10] 『金剛經』
- [11] 『仏藏品』
- [12] 『維摩經』
- [13] 『法華經』
- [14] 『金剛經』
- [15] 『入仏境界經』
- [16] 『楞伽經』
- [17] 『維摩經』
- [18] 『思益經』

(尾欠)

- (5) 『念誦經護法普通諸部』
- (6) 『般若波羅蜜多心經』
- (7) 『金剛三昧經真性空品第六』
- (8) 『大般若經魔愁品』
- (9) 『仏藏經』
- (10) 『金剛經』
- (11) 『仏藏品』
- (12) 『維摩經』
- (13) 『法華經』
- (14) 『金剛經』
- (15) 『入仏境界經』
- (16) 『楞伽經』
- (17) 『維摩經』
- (18) 『思益經』
- (19) 『涅槃經』
- (20) 『仏藏經』
- (21) 『法句經』
- (22) 『金剛三昧經』
- (23) 『諸法無行經』

- (24) 『涅槃經』
(25) 『花嚴經』
(26) 『楞伽經』
(27) 『法華經』
(28) 『法華經』
(29) 『楞伽經』
(30) 『思益經』
(31) 『思益經』
(32) 『瓔珞經』
(33) 『法華經』
(34) 『金剛經』
(35) 『涅槃經』
(36) 『法華經』
(37) 『金剛三昧經』
(38) 『楞伽經』
(39) 『禪門經』
(40) 『大毘頂經』
(41) 『般若心經』
(42) 『修多羅般若經』

△北京新本一二七二号▽

(首欠)

- [19] 『無相法品第二』
- [20] 『無生行品第三』(表記無し)
- [21] 『本覺利品第四』(表記無し)
- [23] 『入實際品第五』
- [24] 『金剛三昧經真性空品下卷』
- [25] 『文殊師利所説般若波羅蜜經』

(43) 『思益經』

(44) 『金剛三昧經』

挿入句(一)

(45) 『楞伽經』

(46) 『大仏頂經』

(47) 『楞伽經』

(48) 『維摩經』

(49) 『金剛經』

(50) 『文殊行經』

(51) 『楞伽經』

(52) 『決定毘尼經』

(53) 『宝積經』

(54) 『金剛三昧經序品第一』

(55) 『無相品第二』

(尾欠)

[26] 『決定毘尼經』(亦名『破壞一切心識』)

『諸經大乘要抄』

『歷代法寶記』(3)

[27] 『楞伽經』

一八二下二六行から

[28] 『金剛經』

←

[29] 『思益經』

一八三上一〇行目まで

[30] 『楞伽經』

一八三上二二行目から

[31] 『法句經』

←

[32] 『金剛三昧經』

←

[33] 『思益經』

←

[34] 『維摩經』

←

[35] 『轉女身經』

←

[36] 『決定毘尼經』

←

[37] 『藥師經』

←

[38] 『大仏頂經』

←

[39] 『仏藏經』

←

[40] 『大仏頂經』

←

[41] 挿入句(二)

一八三下一行目まで

[42] 『法句經』

一八九上一二行目から二四行目まで

[43] 『金剛三昧經』

一八九中二行目から

[44]『維摩經』

[45]『楞伽經』

[46]『仏頂經』

[47]『思益經』

[48]『楞伽經』

←

←

←

←

一八九中一一行目まで

一九〇上五行目から七行目まで

一九〇上二二行目から二六行目まで

『七祖法宝記下巻』(完)

となる。大谷大学本は(1)の途中から始まり、北京本の断欠部分を補うことが出来る。即ち(17)の欠落部分は『維摩經』の名前と引用であり、以下の欠落部分は、大谷大学本によって補うことが出来る。即ち、『涅槃經』、『仏藏經』、『法句經』、『金剛三昧經』、『諸法無行經』、『涅槃經』、『花嚴經』、『楞伽經』、『仏藏經』、『法華經』、『楞伽經』、『思益經』、『思益經』、『瓔珞經』、『仏藏經』、『金剛經』、『涅槃經』、『涅槃經』、『金剛三昧經』、『楞伽經』、『禪門經』、『大仏頂經』、『般若心經』、『修多羅般若經』、『思益經』、『金剛三昧經』、『楞伽經』、『楞伽經』、『楞伽經』、『文殊行經』、『楞伽經』、『決定毘尼經』、『宝積經』の三十六項、經典引用は都合三十五回が順に入っているのが知られるのである。

さらに大谷大学本の末尾は『金剛三昧經』の抄録であるが、同じ『金剛三昧經』無相法品第二の抄録から始まるのが北京新本の後半部である。したがって、『金剛三昧經』を序品から順に抄録する形式を持つ大谷大学本後半部と北京新本後半部の首部とは引用の態様から推して、ほぼそのまま接続すると考えられる。

かくて現存するテキストの全体は、北京図書館蔵敦煌本「殷³⁸号」とほぼ平行して大谷大学本が始まり、その大谷大学本の末尾は「北京新本 1272号」に連続することが明らかとなった。

以上により、元テキストにおける経典引用は延べ八十四回(4)、二十六種類(不明経一)であること、そして挿入句が二箇所にあるのがこの文献の残存部分の概要である。

なお、先に指摘したように、この挿入語以後の部分、即ち九十三行目以降は全て『歴代法宝記』にパラレルパッセージがある。それを同時に表にまとめておいた。完全に一致する様子が窺えるであろう。

一、引用経典について

上に指摘したように引用の仕方は長短を含めて様々であるが、以下に本論で引用される引用経典の一覧をあげる。

『仏藏経』

『念誦経護法普通諸部』

『般若波羅蜜多心経』

『金剛三昧経』

『大般若経』

『金剛経』

『維摩経』

『法華経』

『金剛経』

『入仏境界経』

『楞伽経』

『思益經』

『文殊師利所說般若波羅蜜經』

『決定毘尼經』

『法句經』

『轉女身經』

『藥師經』

『大仏頂經』

『涅槃經』

『諸法無行經』

『花嚴經』

『瓔珞經』

『禪門經』

『文殊行經』

『宝積經』

である。このうち、その翻訳がもつとも遅い經典は『念誦經護法普通諸部』である。これは大正大藏經十八卷に納められ、金剛智(669-741)訳とされる。彼の活躍時期は開元十一年(723)から没年までとされるから、本文獻の成立もそれを受けてのこととなる。

一方、本文獻の成立年代判定にも役立つ『歷代法寶記』(1)は保唐寺無住(714-774)が没した七七四年以降の成立であるとされる。先に指摘した通り全くパラレルな部分があるが、本文獻に見出されるのだが、その先後関係にはわかには判定し難い。もし『歷代法寶

記』を受けて成立したものであるならば、その成立は七七四年以後となる。しかし、後に見る吐蕃仏教との関係から、そのことは認め難い。

つまり、成立史と錯綜した構成に問題を残す『歴代法宝記』の元本のひとつで、比較的早期から編集されていたのではないかと考えられるのである。そのことは北宗の諸師、あるいは荷沢神会(六八四―七五八)の引用する經典の内容やその引用の仕方とも共通するから、大いに有り得ることである。

ただし、現本には後半部に無住の言葉を載せるから、彼の存命中であったとしても、七七四年よりもさほど年代は遡り得ないということにはなる。

次に、『歴代法宝記』に引用書目としてあげられる経論には次のものがある。

『本行経』

『雜阿含経』

『普曜経云』

『応瑞経』

『文殊師利涅槃経』

『清浄法行経』

『無垢光転女身経』

『決定毘尼経』

『大仏頂経』

『金剛三昧経』

『法句経』

- 『仏藏經』
- 『瓔珞經』
- 『花嚴經』
- 『大般若經』
- 『禪門經』
- 『涅槃經』
- 『楞伽經』
- 『思益經』
- 『法華經』
- 『維摩經』
- 『藥師經』
- 『金剛般若經』
- 『付法藏經』
- 『道教西昇經』
- 『釈法琳伝』
- 『釈虚実記』
- 『開元釈教』
- 『周書異記』
- 『漢法内伝』

『尹喜内伝』

『牟子』

『列子』

『苻子』

『呉書』

『并古録』

『及楊楞伽』

『鄴都故事』^⑧

これらは必ずしも本文に利用される典拠と言うわけではなく、その羅列の意味も測りかねるのだが、多くの名称が『諸経要抄』一致しているのが知られる。

一方、八西紀末頃、仏教導入に熱心であつた吐蕃^{チベット}に目を転ずれば、そこでは北宗に属するとされる摩訶衍禪師が短い隆盛の時を迎えていた。彼が『諸経要抄』を持っていたことは確実で、それによつて『頓悟大乘正理決』を著わしている「摩訶衍 p. 114」「西明寺 p. 85ff.」。彼は貞元三年(787)の敦煌陥落「山口年代 p. 114」により吐蕃の首都ラサに迎えられたのだが、さらに大暦十一年(776)の瓜州陥落前後から吐蕃軍は包围網を敷き、敦煌は孤立していたから、それを遡ること相当以前にこの『諸経要抄』は存在したと見なければならぬ。

また、時代は下がると思われるが、シナ禪宗の頓悟思想を主張した『唯一無想義』(ペリオ一六号^⑨)、『大瑜伽修習義』(ペリオ八一八、スタイン七〇五^⑩)、等にも『依拠となる八十経』として本書が利用されていることから、かなりの範囲に伝播し影響力を持っていたことが知られるのである。

三、題名について

先に指摘した通り、北京新本には題名と思しきものが二つ記されている。ひとつは『諸経大乘要抄』であり、ひとつは『七祖法宝記』である。

『諸経大乘要抄』という名前は首尾を欠いた題名も不明の異本である大谷大学蔵・敦煌文献に付された擬題『諸経要抄』と同一と
いってよい〔野上古写経〔T.85.1192c-1197c〕〕。

大正大蔵経八十五巻は昭和七年（一九三二）に初版が刷られているが、そこに採録された大谷大学蔵本に付された仮題が既に十年前の年次を記す蔵書印を持ち写本の成立は更に古いはずの敦煌文献に見えるのはほとんど有り得ない話である。

この大正大蔵経における擬題の命名の由来は定かではないが、ただ、これが大正大蔵経に採録するに当たって仮に付けられた題名であり、かつ何等かの根拠のあったものでもないことは確かだから、それとほぼ同じ題名が敦煌写本に記されていることに奇異の念を抱かざるを得ないのである。（9）

これらは果たして偶然の一致なのだろうか、それとも何等かの情報を大蔵経巻八五から得ていたのであろうか。つまり、両者は明瞭な関係があるのだが、その先後あるいは影響関係が確かではないのである。

もしこれが大正大蔵経を見た後で誰かによって付加されたものであるならば事柄は簡単なのであるが、原本で見える限りあとから書き込まれたようなものではない。とすれば、このテキスト全体が贋作である可能性が高まってくるのである。仮に付けたにすぎぬ名称が全く偶然にオリジナルに一致する可能性はほとんどないからである。

ただ、贋作だとしても、ではそれがいったい如何なる意図によって、誰が何処で作ったのが考えられなければならない。もとよりそれらの全ては現時点では謎のままであるが、敦煌文献にさほどの骨董的価値も考え難い上に、これらを贋作するには相当以上の学力と知識を必要とするから、単なる好事家による贋作とは看做し難い。

それではこれらはいったい如何なる出自を持つのであろうか。既に推測に過ぎないのだが、いわゆる北京図書館蔵本が運ばれた

時、かなりの敦煌本が流出し、収集家の手にわたったことが知られている。それらはよほどの僥倖でもない限り公にされる可能性はないが、売買される折に原本の筆写が行なわれた可能性は高い。つまり、現在我々が手にしている北京新本の多くはそうした近代の写本ではないか、というのが私の考えである。

特に本文献は『諸經大乘要抄』なる書き込みがある以上、大正大藏經の存在を知って、そのことを意識して筆写されたものではないか、という疑いが強いのである。そしてそこに「壬戌歲(1922)の年号を持つ藏書印が押されたのである」と。

あるいはまた全く別に、方向を逆にして次のようにも考えられる。

北京新本は今回新たに発現したとされるが、そこに羅振玉の藏書印があることは、一旦開かれて私藏されたことを意味する。その羅振玉は日本にも来ているから、当時大谷大学が藏していた該テキストを見て、その題名を示唆した、という筋道である。

ただそれならば話にも整合性が出て来るけれども、もしそうであるならば、当時の日本の学者がそのことにもっと関心を示してもよいはずだが、ほとんど孤本のままの扱いであり、エピソードも何ひとつ伝わってはいないのはやはり奇妙である。また、ここまでする『諸經要抄』と考え、それ以降、尾題の『七祖法宝記下卷』までは別のテキストと考えることが出来るかもしれない。ただし、そうすると、「下卷」という文字が如何なる意味を持つのか整合性がなくなり、説明が困難となってしまうのである。

かくてこの名称には大いに疑問があるのだが、今はこれ以上は踏み込むことはできない。ただ、ここに書かれていることそのものまでが贋作であるとは思えないので、この問題はこれで終ることにしたい。

次に、「ここ」にいう「七祖」とは誰かについて、華方田氏は引用される經典の特徴から推測して北宗神秀の弟子の普寂あるいは義福等ではないか、とする「蔵外 2 p.133」。たしかに、敦煌本禪籍のひとつである『伝法宝紀』⁽⁸⁾は達摩より神秀に至る七人の祖師の伝を列ねる初期禅宗史書の一つで、尾題は『伝宝紀七祖一卷』となっている。そしてここにいる七祖は間違いなく北宗神秀(六〇六―七

○六)の系譜、即ち普寂(六五一―七三九)あるいは義福(六五八―七三六)である〔柳田初期 p.95ff.〕。

しかし、それに対して「師承是傍。法門是漸」として批判を加え、荒唐無稽ともいえる達摩伝衣説を持ち出して南宗の正系を主張したのが神会であった〔胡適遺集 p.351〕。そしてその主張をそのまま継承するのが『歴代法宝記』の一派であるから、ここに七祖とは神会でなければならぬだろう。そして、二ヶ所の挿入句はそのことを補強しているというべきであろう。

四、テキスト翻刻

〈凡例〉

A 本：『諸経要抄』(大谷大学蔵敦煌本、首尾欠)

B 本：『七祖法宝記』(北京図書館蔵敦煌本、殷三八号、首尾欠)

C 本：『七祖法宝記』(北京図書館蔵敦煌新本一二七二号、首欠)

主としてA本に従うが、欠落部分はB本、C本に従う。記号の用い方は、例えば、

[A32]如是教者是「A無し」名「善知識。若人成就如是[B28]相者世間希」B欠」

とある場合、A本三二行目には「如是教者名善知識。若人成就如是相者世間希」とあり、前から五字目の「是」はB本にのみある。対応するB本は二七行目後半から二八行目にあたるが、欠落が多く、「如是教者是名・・・」しか判読出来ず、改行部分も特定出来ない、そのことを記号によって記してある。

また○は校訂者の注記、【】は原文は細字で二行に分ち書きされていることを示す。

ここで用いる漢字は旧字・新字には拘泥しない。写本の持つ細かい差異までは表現し切れないからである。

- [B1] (首欠。B本のみ存) 仏藏經諸法実相品第一。(1)亦名選諸法(2)卷第「一」(3)
- [B2] 爾時舍利弗從三昧起。行詣仏所。偏袒右肩頭面作礼「白仏言。希有世尊。如來所說一切諸法」
- [B3] 无生无滅无相无為。令人信解。(4)舍利弗。譬如巧畫師。畫於「虚空現種種色相。於意如何。是畫」
- [B4] 師者為希有不。希有世尊。舍利弗。如來所得阿耨多「羅三藐三菩提。說一切法無生無滅無相」
- [B5] 无為。令人信解倍為希有。(5)舍利弗。譬如藕絲懸須弥山「在於虚空。於意云何。為希有不。希有世」
- [B6] 尊。舍利弗。如來所說一切諸法。无生无滅无相无為。令人信「解。．．．(6)」
- [B7] 无所有。一切世間所難信解。何以故。是法无想離諸想。无念「離諸念。(7)以無量智乃可得解。非以思」
- [B8] 量所能得知。无行无想无有「惱熱||熱惱B」。无念過諸念。无心過諸心。无向无背。「無縛無解。無妄無妄法。(8)」
- [B9] 无說无不說。舍利弗。我此聖法。皆能降伏一切貪著。乃至「說有法者||者說有者說B」。「不信樂諸法如実相者。(9)說辺」
- [B10] 者。皆違逆仏。与仏共諍。舍利弗。乃至於法少許得者。皆与仏諍。与仏「諍者皆入邪道。非我弟子。若」
- [B11] 非我弟子。則与涅槃共諍。与仏共諍。与法共諍。与僧共「以下、A本有るも首部は破損が大きい。諍。舍利弗。如是見人。「我則不聽出家受戒。舍||B欠」
- [B12] 利弗。如是見人。我則不聽受一飲水。以自供養。(20)但「勤||勲B」修无相三昧。於无相三昧。又不取相。「是人通||B欠」
- [B13] 達一切諸法相。皆是一相。所謂无相。
- [A5] (以下はA本を主とし、B本を従とする。) 仏藏經念仏品云。悪知識。
- [A6][B4] 仏告舍利弗。若有比丘教余比丘。汝當念仏「念法||A欠」
- [A7] 念僧念戒念施念天。唯愛涅槃畢竟[B15]清淨。如是
- [A8] 教者名為邪教。謂是正教而是邪教。舍利弗。「如||A欠」

- [A9]是教者名為惡知識。是人名[B16]為誹謗於我助於
- [A10]外道。亦為他人說邪道法。舍利弗。如是惡人我乃不
- [A11]聽受一飲水以自供養。舍利弗。[B17]是念仏法斷語言
- [A12]道過出諸念。不可得念是名念仏。舍利弗。一切諸
- [A13]念皆寂滅相。隨順是法。此[B18]即名為修習念仏。〔不〓A欠〕
- [A14]可以色念仏。何以故。念色取相貪味為識。无形〔无色〓A欠〕
- [A15]无缘无性。是名念仏。是故當[B19]知。无有分別无〔取〓A欠〕
- [A16]无捨。是真念仏。
- [A17]仏藏經念法品云。善知識。
- [A18][B20]舍利弗。是人爾時都无所有寂滅无性。不集〔諸相滅〓A欠〕
- [A19]一切法。是則名為修習念仏。念〔仏名為〓B欠〕[B21]破善〔不善〓A欠〕
- [A20]一切覺觀。无覺无觀寂然无想。名為念仏。何〔以故。〓A欠〕
- [A21]不〔応〕以覺觀憶念諸仏。无覺〓B欠〕[B22]无觀名為清淨念〔仏。〓A欠〕
- [A22]舍利弗。隨所念起一切諸想皆是邪見。舍利〔弗。隨
- [A23]无所有无覺无觀〓B欠〕[B23]无生无滅。通達是者名為念
- [A24]仏。如是念中无貪无著。无逆无順。无名〔无相。无想
- [A25]无語。乃名念仏。是〓B欠〕[B24]中乃无微細小念。何況麤身口
- [A26]意業。无身口意業処。无念无分別。空寂无相性〔滅
- [A27]諸覺觀。是名念仏。汝[B25]念仏時莫取小〔想〓相B〕莫生〔戲論。〓A欠〕

- [A28]莫有分別。何以故。是法皆空「无有体性。不可念一相。所
- [A29]謂无相。[B26?]是名「B欠」真実念仏。何以故。如来不名
- [A30]為色。不名為想。不名為念。不「名為分別。不逆不順不取不捨。
- [A31][B27?]非定非慧。是「人於仏」猶「由B」尚不得。何況於念。舍利弗。
- [A32]如是教者是「A無し」名「善知識。若人成就如是[B28?]相者世間希「B欠」
- [A33]有。得不顛倒真実見故。是為正見。復次舍利弗。正
- [A34]見「者。名為正作正行正道正解。无[B29?]有顛倒「B欠」如実而
- [A35]見。是故如来說名正見。若生我「想「相B」人「想「相B」衆生「想「相B」者。
- [A36]當「知。是人皆是邪行。「B欠」
- [A37][B30]仏藏經云。惡知識。
- [A38]舍利弗。人以清淨信等諸根出家學道。「遇惡知識。惡
- [A39]知識者。常好調「B欠」[B31]戲輕躁无羞。言語散乱不摂諸根。
- [A40]心不專一痴如白羊。親近如是惡「知識者。失須陀洹
- [A41]果。斯陀「B欠」[B32]含「+果B」阿那含果、阿羅漢果。乃至失於生天之樂。
- [A42]況涅槃道。舍利弗。「是人随惡知識。若生人中父「B欠」[B33]母
- [A43]生離死亡喪失。親里衰惱国土破壞。生八難中捨
- [A44]於樂處。遇惡知「識生无仏處。若值仏世目不喜
- [A45]見。「B欠」[B34]不喜聞法。不与仏衆而和合。
- [A46]念誦結護法普通諸部。

- [A47]三藏金剛[智授与灌頂弟子。＝B欠]
- [A48][B35]凡欲[＝B無し]念誦先須護身結界[澄＝証B]想。觀察本尊聖者。
- [A49]起慈悲心愍念有情。發大誓願迴向菩提。方可[B36]念誦。
- [A50]持四種念珠作四種念誦。一者音声念誦。二者金剛
- [A51]念誦。合口動舌[点＝默然B]誦是。三[者＝是B]三摩地[B37]念誦。心念(誦B)
- [A52]是也。四者真真念誦。如字義修行是也。能令行者
- [A53]速証无上菩提。具一切智。此心真[B38]言。是一切諸仏
- [A54]第一義。[真・B]如智中流出。[非是＝是非B]作法顯現。如巧色摩尼
- [A55]能滿[一・B]諸願。一切諸仏同声共説。[B39]思惟之時。唯是明朗
- [A56]亦不見身之与心。況无一物法非空故。若久能熟當自
- [A57]証智。作是觀時。誦密言曰
- [A58][B40]念此明者。即能証入一切灌頂曼荼羅位。於諸菩
- [A59]薩祕密法門随意无礙。作是觀時不復延促。[B41]務
- [A60]在証入。若能一一与心相応方大成就。一切時処作
- [A61]意任運相応。无所罣礙。一切妄想貪瞋痴等。[B42][不仮
- [A62]断＝B欠]除自然不起性常清淨。此真実法門。是一切
- [A63]衆生自性清淨心名為[+大B]円鏡智。上從諸仏[B43][下至衆＝B欠]
- [A64]生。悉皆同等无有増減。但為无明妄想所覆。令
- [A65]其法体不得顯現。作是觀者便証解脱[B44][一切智三＝B欠]

- [A66]昧。名為地前三賢位。所有動作任運相応。自然進
- [A67]入初地生大歡喜。所以然者。以觀月為方[B45]便。具有三
- [A68]義。一月清淨義。離貪欲垢故。二「者·B」清淨源義。離
- [A69]貪嗔熱惱故。三者光明義。離愚[B46]痴故。所以取月為
- [A70]喻亦莫作月解。世間「+月·B」者四大所成畢竟破壞。衆生
- [A71]自性清淨心无生[B47]滅故。此是「諸·B」仏菩薩内証非一
- [A72]乘声聞外道所知境界。作此觀者。一切仏法恒沙功
- [A73]德不由他悟。此[B48]一法撰无量。刹那悟入諸法中。自「在||作·B」
- [A74]无礙。從地至地漸漸昇進。学此觀者。不得專守念
- [A75]以為[B49]究竟。當須正念進修方便。然後証入究竟「清·B」
- [A76]「淨·B」法海。
- [A77]般若波羅蜜多心經。
- [A78][B50]三世諸仏依般若波羅蜜多。故得阿耨多羅三藐三
- [A79]菩提。故知。般若波羅蜜多是大神呪。是[B51]大明呪。是
- [A80]无上呪。是无等等呪。能除一切苦真実不虛。
- [A81]金剛三昧經真性空品第六。
- [A82][B52]舍利弗言。如尊所說在事之先。取以本利是念寂滅。
- [A83]寂滅是如。総持諸徳該羅万法。円融不二「B53」可思議。當
- [A84]知。是法即是摩訶般若波羅蜜。是大神呪。是大明

- [A85]呢。是无上呢。是无等等呢。仏[B54]言。如是如是。真如空
- [A86]性。性空智火燒滅諸結。平等平等。等覺三地。妙
- [A87]覺三身。於九識中皎然明[B55]淨。无有諸影
- [A88]若有衆生无余雜念。爾時菩薩常作化身權護是
- [A89]人。不離左右。
- [A90][B56]大般若經摩訶品云。
- [A91]若有衆生。修行般若波羅蜜者。与不憶不念相応。
- [A92]一切魔[≡摩A B]家眷属悉皆[B57]愁憂不樂。
- [A93]仏藏經云。
- [A94]舍利弗。我法无諸難事。不乏飲食臥具医薬。汝等
- [A95]但當勸行仏道。莫[B58]貴世間財利供養。舍利弗。汝今
- [A96]善聽。我當語汝。若有一心行道比丘。千億天神皆共同
- [A97]心以諸樂具[B59]欲共供養。舍利弗。諸人供養坐禪。比丘
- [A98]不及天神。
- [A99]仮仏一切形像是。
- [A100]金剛經云。[B60]凡[所≡是B]有相皆是虚妄。若以色見我。以音声
- [A101]求我。是人行邪道。不能見如来。
- [A102]仏藏經云。[B61]仏告舍利弗。我余經説。若人見法是為見我。
- [A103]如来非法亦非非法。【不順有相不依無相。即是見法。見法者見本性】何以故。調[B62]達

- [A104]愚人及諸外道。皆以色身見仏。舍利弗。如來不応以色
- [A105]身見。亦復不応以音声見。舍利弗。若人[B63]以色身見仏。
- [A106]是[去仏]法去B]遠。所以者何。仏不名見名為見仏。【不依有見[+不依B]無見。即是[不依B]正見】。
- [A107]維摩經云。[B64]夫求法者。不著仏求。不著法求。不著衆
- [A108]求。法名無染。若染於法乃至涅槃。是即染著非[B65]求法
- [A109]也。法名無為。若行有為。是求有為。非求法也[+唯舍利弗B]。法離見
- [A110]聞覺知。若行見聞覺知。[B66]是即見聞覺知非求法也。
- [A111]唯舍利弗。夫求法者。於一切法心無所求。
- [A112]法華經云。[B67]無上宝聚不求自得。【若人不求種種世法。亦不求仏法。即是真求法人。】
- [A113]真仏者。【識心見性悟理之人。即是真仏。】
- [A114]金剛經云。[B68]離一切諸相。即名諸仏。【離有離無故。不垢不淨故。無生無体故。】
- [A115]法身礼。入仏境界經云。[B69]仏常在世間。而不染世法。
- [A116]以不分別世間故。敬礼無所觀。虛空無中辺。諸仏[身]躰B]亦然。
- [A117]心同虛空故。[B70]敬礼無所觀。一切平等礼。無礼無不礼。
- [A118]一礼遍合識。同歸実相体。【実相者、不[順]相B]有相不依無相是。】
- [A119]楞伽經云。[B71]爾時大恵白仏言。世尊。願為我說諸仏体
- [A120]性。仏言。大恵。覺二無我。除二種障。離二種死。断二種
- [A121]煩惱。[B72]是仏体性。大恵声聞縁覺得此法已亦名為
- [A122]仏。我以是[義但説一乘。

- [A123]爾時世尊重說偈言。 〓 B 欠][B73]善知二無我。 除二障二惱。 及不思議死。
- [A124]是故名如來。 假三寶
- [A125]形像仏是仏寶。 一切經論教法是法寶。 〓 B 欠]
- [A126][B74]剃髮被袈娑受二百五十戒是僧寶。 【若不識心不見性総無寶。】真[三]
- [A127]寶。 【見性之人、三寶具足。】
- [A128]維摩經云。 〓 B 欠][B75]寂根菩薩曰。 仏法衆為二。 仏即是法。
- [A129]法即是衆。 是三寶。 【皆無為相。 与虚空等。 一切法亦爾。
- [A130]能隨此 〓 B 欠][B76]行者。 是為入不二法門。 【不隨有行不依無行、即是離法之人。】
- [A131]思益經云。 【若身証是法。 亦不離身見法。 亦不離法 〓 B 欠]
- [A132]見身。 於是觀中不見二相。 不見不二相。 如是現前知見(B本終了)
- [A133]而亦不見。 名聖默然。 若有諸菩薩。 於上中下法。
- [A134]亦不取不捨。 是名行菩提。 若法及非法。 不分別為二。
- [A135]亦不得不二。 是名行菩提。 若二即有為。 非二即無為。
- [A136]離是二邊者。 是名行菩提。 是人過凡夫。 亦不入法位。
- [A137]未得果而聖。 是世間福田。 行於仏道時。 無法可捨離。
- [A138]亦無法可受。 是名菩提相。 一切無所念。 是即如來法。
- [A139]文殊師利菩薩問思益菩薩言。 云何名為修道。 思益
- [A140]菩薩答言。 若不分別是法非法。 離於二相。 名為
- [A141]修道。 又問云、何名為修道。 答言、不墮有不墮無亦

- [A142]不分別是是有是無。習如是者名為修道。
- [A143]又問。何故不見。答。言離二相故不見。不見即是正見。若
- [A144]說法不違佉不違法不違僧。名為說法。若知法即
- [A145]是佉。【是佉宝】離相即是法。【是僧宝】無為即是僧。【是僧宝】
- [A146]一人見性。分明三宝具足。涅槃經云。見性成佉道。
- [A147]除見性外。更有法門出三界得成佉者。無有是处。【佉戒。【因犯禁戒制戒是。此戒是方便戒。是不了教。只許五
- [A148]歲学五歲若不捨是真外道。是具足邪見人。】佉藏經云。佉告舍利弗。
- [A149]我說教者不說受者。舍利弗。於我法中多有如是
- [A150]增上慢教。舍利弗。若受教者受戒五歲不能悉捨。
- [A151]如是我所教於是教中熱心精進自有得。無有比丘
- [A152]不往諮問。我說此人雖有五歲猶名邪見。雜外道法
- [A153]順行魔教。舍利弗。若有比丘受是教已聞空無所得法。
- [A154]即自覺知。我先受者皆是邪見。於空無所得法
- [A155]無悔。深入通達不依一切我見人見。舍利弗。我說此
- [A156]人名為清淨梵行。
- [A157]法句經云。若說諸持戒。無善無威儀。戒性如虛空。
- [A158]持者為迷倒。
- [A159]金剛三昧經。為說戒者。為不善慢故。海波浪故。如彼心
- [A160]地八識海。激九識流。淨風不動。波浪不起。戒性等空

- [A161]持者迷倒。諸方無行經云。若人分別戒。
- [A162]是則無有戒。若有見戒者。是則為失戒。戒非戒一相。
- [A163]知是為道師。涅槃經云。戒有二種。一者性自能持。
- [A164]二者須他教勅。若遇師僧白四羯磨。然後得戒。雖得
- [A165]戒已要憑和上諸師同學善友誨喻。乃知。進止聽法
- [A166]說法備諸威儀。是名須他教勅。
- [A167]花嚴經梵行品云。若戒是梵行者。為壇場是戒
- [A168]耶。問、清淨是戒耶。教威儀是戒耶。三說羯磨是
- [A169]戒耶。和上是戒耶。阿闍梨是戒耶。剃髮是戒耶。
- [A170]著袈裟衣是戒耶。乞食是戒。正命是戒耶。如是
- [A171]觀已於身無所取。於修無所著。於法無所住。過
- [A172]去已滅。未來未至。現在空寂。無作業者。無受
- [A173]報者。此世不移動。彼世不改變。此中何法名為梵
- [A174]行。從何處來。誰之所有體。為是誰由誰而作。為
- [A175]是有為是無。
- [A176]真戒。【一切衆生本來自有仏性。是持真戒者、識心見性人。是見性之時、想念不生。不起分別及有漏習。入無戒。不自
- [A177]不他。不垢不淨。無我無人無念無分別無主無宰無悋無惜、百無所須。諸欲永息等同虛空。同無情仏身心不自。戒犯不二能。
- 如是
- [A178]知者是真持戒人。】

- [A179]不淨說法。
- [A180]楞伽經云。未來世當有。身著於袈裟。妄說於有無。
- [A181]毀壞我正法。佞告大惠。彼愚痴人說有三乘。不說唯心無
- [A182]諸境界。一切痴外道。妄見作所作。悉着有無論。
- [A183]是故無解脫。涅槃離心意。唯此一法實。藏識說為心。
- [A184]思量以為意。心如白色衣。意識習為垢。垢習之所汚。
- [A185]念心不顯現。若隨言取義。建立於諸法。以彼建立故。
- [A186]死墮地獄中。
- [A187]佞告大惠。彼人愚痴不知。言說是生是滅。義不生滅。一
- [A188]切言說墮於文字。義則不墮。離有離無故。無生
- [A189]無体故。淨說法。
- [A190]仏藏經云。是人又能清淨持戒。無有瑕疵。
- [A191]不垢不淨。自在智者所讚能自具足。隨順禪定時
- [A192]樂坐禪。如是比丘我亦聽受供養。舍利弗。身証
- [A193]法者無有疑悔。我聽是人高坐說法。雖見凡夫清
- [A194]淨持戒。心不貪著外道經義。一心懇求沙門上果。不貪
- [A195]利養善巧定說。多聞広喻猶如大海。乃至失命猶不
- [A196]妄語。不樂諍訟自利利他。唯說清淨第一美義。所說
- [A197]如是。舍利弗。如是說者我聽說法。如來所說能使諸法

- [A198]不相違逆。為說戒定惠解脫解脫知見。舍利弗。求利
[A199]比丘。為仏出家而破戒品。何用說法。何以故。舍利弗。
[A200]我經中說。若人不自善寂不能護。法能令他人善寂
[A201]自護。無有是處。如人自沒汚溼欲出他人。無有是
[A202]處。若人自善寂。能出汚溼欲出他人。則有是處。是故
[A203]舍利弗。我今明了告汝。誹謗如来其罪不輕。実語比
[A204]丘忝聽說法。非妄語者持戒比丘。則能法施。舍利弗。
[A205]高坐說法決定疑斷。最是上事。若持戒不淨着外
[A206]道義。妄語者我則不聽。及貴世樂者。求利者。樂諍
[A207]訟者。我亦不聽。我聽淨持戒者。質直心者。通達諸
[A208]法実相者。高坐說法。舍利弗。破戒比丘寧當捨戒。
[A209]不著聖人相袈娑覆藏罪垢。蜜作衆惡受人信施。
[A210]舍利弗。云何以小因縁。而於地獄受久遠身。阿難。譬
[A211]如惡賊於王大臣。不敢自現盜他物者。不自言賊。
[A212]如是阿難。破戒比丘成就非沙門法。上不自言我是
[A213]惡人。況能向余人說。自言罪人。阿難。如是經者。破
[A214]戒比丘。隨得時間能自降伏則有慚愧。持戒比丘
[A215]得自增長。說是法時。九万諸天於諸法中得法眼淨。
[A216]法華經云。我此九部法隨順衆生。入大乘為本。

- [A217]楞伽經云。爾時大惠復請仏言。唯願為說宗趣之
- [A218]相。令我及諸菩薩善達此義。不隨一切衆邪妄解。
- [A219]疾得阿耨多羅三藐三菩提。仏言。諦聽。當為汝
- [A220]說。大惠言唯。仏言。大惠一切二乘及諸菩薩。有二種
- [A221]宗法相。何等為二。為宗趣法相。言說法相。宗趣法
- [A222]相者。謂自所証殊勝之相。離於文字語言分別。入無
- [A223]漏界成自地行。超過一切不正思覺。伏魔外道生智
- [A224]惠光。是名宗趣法相。言說法相者。為說九部種種
- [A225]教法。離於一異有無等相。以巧方便隨衆生心令入
- [A226]此法。是名言說法相。汝及諸菩薩當勤修學。爾「||令△」時
- [A227]世「||△無」尊重說頌言。宗趣与言說。自証及教法。
- [A228]若能善知見。不墮他妄解。
- [A229]仏告大惠言。第一義者。是聖智內自証境。非語言分
- [A230]別智境。語言分別不能顯示。大惠言。說者生滅動
- [A231]搖展轉因緣生。若展轉緣生於第一義則不能
- [A232]顯示。第一義者。無自他相。言語有相不能顯示。第
- [A233]一義者。但唯自心。種種外相悉皆無有。言語分
- [A234]別不能顯示。是故大惠応常遠離語言分別仏
- [A235]分別。仏告。婆羅門乃至有心識流動分別外境。

- [A236]皆是世論乃至心流動。是則為世論。分別不起者。
- [A237]是人見自心。
- [A238]佞告大惠。乃至少有言語分別生。即有常無常
- [A239]過。是故応除二分別覺勿令少在。
- [A240]乃至有所立。一切皆錯乱。若見唯自心。是則無為諍。
- [A241]愚夫樂妄說。不聞真實惠。言說三苦本。真實滅苦因。
- [A242]言說即變異。真實離文字。於妄想心鏡。愚生二種見。
- [A243]不識心及縁。即起二妄想。了心及境界。妄想即不生。
- [A244]我無上大乘。超過於名言。其義甚明了。愚夫不覺知。
- [A245]内自証不動。是無上大乘。
- [A246]思益經云。云何比丘隨仏教隨仏語。答言。称讚
- [A247]毀辱其心不動。是名隨仏教。不隨文字語言是
- [A248]名隨仏語。又比丘滅一切諸相。是名隨仏教。又云。
- [A249]身無所起心無所起。是名第一牢強精進。
- [A250]有諍法。思益經云。梵天言。云何比丘多諍訟。答
- [A251]言。是好是惡此名諍訟。是理是非理此名諍訟。是
- [A252]垢是淨此名諍訟。是善是不善此名諍訟。是戒
- [A253]是毀戒此名諍訟。是応作是不応作此名諍訟。以是
- [A254]法得道以是法得果此名諍訟。梵天若於法中有

- [A255]高下心貪著取受。皆是諍訟。樂諍訟者。無沙門法。
- [A256]樂沙門法者。無有妄想貪著。梵天言。云何比丘親
- [A257]近於仏。答言。若比丘於諸法中不見有法若近若
- [A258]遠。是名親近於仏。梵天言。云何比丘給侍於仏。答言。
- [A259]若比丘身口意無所作。是名給侍於仏。樂瓔珞莊嚴
- [A260]方便品。【一部一卷成。亦名転女身菩薩問答經。】
- [A261]若其無諍不可言說。以何等故說名無諍。須菩
- [A262]提言。姉。如來世尊為声聞弟子仮名字說。女言。大
- [A263]德須菩提。若有仮名即有諍訟。若有諍訟即有
- [A264]顛倒。若有顛倒非沙門法。須菩提言。姉何等是沙
- [A265]門法。女言。大德須菩提。無有文字。無有諍訟。無有
- [A266]顛倒。是沙門法。亦不分別是法。是非法。是沙門法。又
- [A267]不分別憶想不憶想。是沙門法。離一切著。是沙門法。
- [A268]無心離意識。是沙門法。知足是沙門法。離有為法。
- [A269]是沙門法。諸法如虛空。是沙門法。說是沙門法時。中
- [A270]間所集聽法諸天。有四十天子。遠塵離垢得法眼淨。
- [A271]仏藏經云。【仏弟子修有為著相。非沙門法。】
- [A272]非沙門自称沙門。不応供養而受供養。名為常賊
- [A273]立幢相賊。名為自在殺害人賊。是人所食一口皆不淨。

- [A274]唯清有向道得道果者能消供養。舍利弗。我滅度
[A275]後如是等人滿閻浮提。專行行求利以自生活
[A276]有為法。
[A277]金剛經云。一切有為法。如夢幻泡影。如露亦如電。
[A278]応作如是觀。
[A279]涅槃經云。有為功德。多諸過患。
[A280]仏藏經云。我所説諸法。隨順第一義。有為不堅牢。
[A281]如夢之所見。
[A282]金剛三昧經云。於有為法如避火坑。
[A283]楞伽經云。若依止少法而有少法起。若依止於事此法即便壞。
[A284]禪門經云。大乘妙義至理空曠。有為衆生而不能入。
[A285]大仏頂經云。円満菩提無所得。
[A286]般若子經云。無智亦無得。以無所得故。即菩提薩埵。
[A287]修多羅般若經云。仏告須菩提。若有善男子。
[A288]善女人。發菩提心有所得者。即是邪見。邪見之
[A289]人永不見仏。断一切智名為仏智見。凡夫有為。仏
[A290]は無為。如是見者非平等見。見凡夫法空仏法
[291]亦空。如是見者是名正見。
[A292]思益經云。世尊。云何具足六波羅蜜。梵天若

- [A293]不念施。不依戒。不分別忍。不敢精進。不住禪定。不
 [A294]二於惠。是名具足六波羅蜜。
- [A295]金剛三昧經云。空心不動具六波羅。
- [A296]此大乘頓教法門。為一切衆生本來自有仏性。千
- [A297]經万論大小乘教文字言說。只指衆生本性見
- [A298]成仏道。此法亦名反源。亦名反照。亦名反流。亦名
- [A299]迴向。亦名無生。亦名無漏。亦名不起。亦名法離見
- [A300]聞覺知。楞伽經云。如水瀑流尽。波浪即不起。
- [A301]如意識滅。種種識不生。大仏頂經云。
- [A302]元是一精明。分為六和合。一處成休復。六用皆不行。
- [A303]一根既反源。六根成解脫。反聞聞自性。性成無上道。
- [A304]反見見自心。見性成仏道。
- [A305]又云。若棄生滅守於真常。常光現時。塵根識心応
- [A306]時消落。想相為塵。識情為垢。二俱遠離。則汝法
- [A307]眼応時清明。云何不成無上知覺。
- [A308]仏告阿難。如是清淨持禁戒人心無貪[婬。於外 〓 A 欠]
- [A309]六塵不多流溢。因不流溢旋源自帰。[鹿既不縁 〓 A 欠]
- [A310]根無所偶。反流全一六用不行。十方国土[皎然清淨。 〓 A 欠]
- [A311]楞伽經云。遠離於心識。亦離於五法。復離於[自性。 〓 A 欠]

- [A312]是為仏種性。由依本識故。而有諸識生。〔由依内識故。 〓 A欠〕
- [A313]有似外影現。無智恒分別。有為及無為。〔A本欠〕。
- [A314]離質亦無影。藏識若清淨。諸識浪不〔生。依法身有報。 〓 A欠〕
- [A315]而起淨分別。若不了無我。依教不依義。理教中求我。
- [A316]是妄垢惡見。不了故說有。唯妄取無余。離聖教正理。
- [A317]欲滅惑反增。是外道狂言。智者不応説。教理由故顯。
- [A318]當於此教理。勿更余分別。
- [A319]維摩經云。文殊師利菩薩。從無住本立一切法。
- [A320]金剛經云。一切諸仏。及諸仏阿耨多羅三藐三菩提法。
- [A321]皆從此經出文。〔此經者即此心。是不生不滅故。不垢不淨故。離有離無故。影体俱離故。不依性相故。亦不順生。亦不依
- [A322]寂。亦不順有相。亦不依無相不沈不浮故。〕
- [A323]文殊行經云。復次舍利弗。若有人言。過去未來
- [A324]於實際中。説有依処説無依処者。當知。彼輩誑
- [A325]謗如来獲大重罪。所以者何。彼真實際無憶无念
- [A326]亦無墮落。〔无憶无念者即不順浮。亦无墮落者。即不沈空滯寂。此法不順有心。不依無心。順有心者即是波
- [A327]浪。依无心者即是。空見外道有无不二即是正見。〕
- [A328]楞伽經云。天乘及梵乘。声聞縁覺乘。諸仏如来乘。
- [A329]諸乘我所説。乃至有心起。諸乘未究境。彼心転滅以。
- [A330]无乘及乘者。无有乘建立。我說為大乘。

- [A331]大乘非乘。非名亦非字。非諦非解脫。
- [A332]我無上大乘超過於名言。其義甚明了。愚夫不覺知。
- [A333]內自証不動。是無上大乘。
- [A334]決定毘尼經云。見凡夫有為仏。是無為。如是見者不平
- [A335]等見。見凡夫法空仏法亦空。如是見者是名平等
- [A336]見。見犯比丘不入地獄。清淨行者不証涅槃。如是見
- [A337]者名平等見。寶積經云。云何真供養仏。仏言。无仏
- [A338]想无法想无僧想。是名日日真供養仏。仏不名作。不名
- [A339]色。不名想。无作无色无想。是名真供養仏。
- [A340]金剛三昧經序品第一。
- [A341]爾時世尊。大衆圍繞。說大乘經。名一味真實際本
- [A342]覺利行。若聞是經。乃至受持一四句偈。是人則為
- [A343]入仏智地。能以方便教化衆生。為一切衆生作大知
- [A344]識。仏說此經已。結跏趺坐。即入金剛三昧。身心不動。
- [A345]爾時衆中。有一比丘。名曰阿伽陀。從坐而起。合掌跏
- [A346]跪。欲宣義意。而說偈言。
- [A347]大慈滿足尊。智慧通無礙。広度衆生故。説於一諦義。
- [A348]無量諸菩薩。皆悉度衆生。為衆広染問。知法寂滅相。
- [A349]入於決定処。如來智方便。當為入実説。随順皆一乘。

- [A350]無有諸雜味。猶如一雨潤。衆草皆悉榮。隨其性各異。
- [A351]一味之法潤。普充於一切。如彼一雨潤。皆長菩提芽。
- [A352]入於金剛味。証法真実定。決定斷疑悔。一法之印成。
- [A353]無相法品第一。
- [A354]一覺了義難解難入。非諸二乘之所知見。唯仏菩薩乃
- [A355]能知之。善男子。若化衆生無生於化。不生無化其化大
- [A356]焉。令彼衆生皆離心我。一切心我本來空寂。若得
- [A357]空心心不幻化。無幻無化即得無生。無生之心在於
- [A358]無化。解脫菩薩。而白仏言。尊者。若有衆生見法生時。
- [A359]令滅何見。〔21〕
- [C1]〔約十五字欠落〕現識不生。无生可止。〔22〕
- [C2]〔約九字欠落〕无止。亦不住於无止。亦不住於无住。云何是生。〔解脫・C〕菩薩白仏言。無生之心。有何取捨。住
- [C3]何法相。仏言。无生之心。不取不捨。住於不心。住於不法。不住諸行。心常空寂。無有異相。譬如虚空无有
- [C4]動住。无起无作。无彼无此。得空心眼。得法身〔原作∥身法〕空。五陰六入悉皆空寂。善男子。修空法者。不依三界。
- [C5]不住戒相。清淨无念。无撰无放。性等金剛。不壞三宝。空心不動。具六波羅蜜。〔解脫菩薩。而〕白仏言。尊者。六波羅蜜者。
- [C6]皆是有相。有相之法。能出世也。仏言。善男子。我所説六波羅蜜者。无相无為。何以故。若人離欲。心常清淨。
- [C7]実語方便。本利利人。是檀波羅蜜。至念堅固。心常无住。清淨不染。不着三界。是尸波羅蜜。遠離名数。断
- [C8]空有見。深入陰空。是毘梨耶波羅蜜。俱離空寂。不住諸空。心処无在。大空是禪波羅蜜。心无心相。
- [C9]不取虚空。諸行不生不証寂滅。心无出入。性常平等。諸法実際。皆決定性。不依諸地。不住智慧。

- [C10]是般若波羅蜜。善男子。是六波羅蜜者。皆獲本利。入決定性。超然出世。无礙解脫。
- [C11]大覺滿足尊。入於決定處。无相无有行。空心寂滅地。寂滅心无生。不壞於三宝。具六波羅蜜。
- [C12]〔23〕△ 仏言。无忍无生心者。心无形段。由如火性。雖処木中。其在无所決定性故。但名但字。性不可得。欲詮其理。
- [C13] 仮説為名。名不可得。心相亦爾。是決定性亦不一不異。不斷不常。不入不出。不生不滅。離諸四謗。言語道
- [C14]斷。无生〔心性〕||無心〕亦復如是。心王菩薩言。如无生行。性相空寂。无見无聞。无得无失。无言无説。无知无
- [C15]相。无取无捨。云何取証。若取証者。即為諍論。无諍无論。乃无生行。總持无相。則无三受等三。悉皆寂
- [C16]滅清淨无住。不入三昧。不住坐禪。无生无行行。心王菩薩言。禪能撰動。定諸幻乱。云何不禪。仏言。菩薩
- [C17]禪即是動。不動不禪是无生禪。禪性无生。離生禪相。禪性无住。離住禪動。知禪性无有動靜。即得无生。
- [C18]无生般若。△〔24〕一切境空。如何見。仏言。見即為妄。何以故。一切万有。无生无相。本不自名。悉皆空寂。一切
- [C19]法相亦復如是。一切衆生身亦如是。身上不有。云何可見。善男子。覺者不住涅槃。何以故。覺本无生。離
- [C20]衆生垢。覺本无寂。離涅槃動。住如是地心无所住。无有出入。仏言。一念心動五陰俱生。五陰生中具六十惡。十
- [C21]方遍計一念心生。尊者大覺尊。説生无念法。无念无生心。心常生不滅。入實際品。△〔25〕
- [C22]大力菩薩白仏言。尊者。如仏所説。五空出入无有取捨。云何五空而不取捨。仏言。菩薩五空者。三有是空。
- [C23]六道影是空。法相是空。名相是空。心識義是空。菩薩如是等空。空不住空。空无空相。无相之法。有何取捨。
- [C24]入无取地。則入三空。大力菩薩言。云何三空。仏言。三空者。空相亦空。空空亦空。所空亦空。如是等空。不住三相。
- [C25]无真实。文言道斷。不可思議。菩薩无名義相。不可思議。何以故。无名之名。不在於名。无義之義。不
- [C26]无於義。仏言。如是。衆生之心。实无別境。何以故。心本淨故。理无穢故。以染塵故。名為三界。三界之心。名為別境。是
- [C27]境虚妄。從心化生。若心无妄。即无別境。仏言。菩薩彼心喘者。以内外使。随使流注。瀝滴成海。
- [C28]大力菩薩言。云何存用。云何觀之。仏言。心事不二。是名存用。内行外行。出入不二。不住一相。心无得失。一不一

- [C29]地。淨心流入。是名觀之。菩薩如是之人。不在二相。雖不出家。不住在家。故雖无法服。不具持波羅提
- [C30][木]叉。不入布薩。能以自心無為自恣。而獲聖果。菩薩。如是之人。心不持戒。於彼沙門。心不敬仰。仏言。為說
- [C31]戒者。不善慢故。海波浪[故]。如彼心地。八識海澄。九識流淨。風不能動。波浪不起。戒性等空。持者迷倒。
- [C32]金剛三昧。經真性空品。〔26〕善男子。善不善法。從心化生。一切境界。意言分別。制之一處。衆緣斷
- [C33]滅。何以故。一切不起。三用無施。舍利弗言。不住事相。不无功用。是法真空。常樂我淨。超於二我海。大般涅槃。
- [C34]其心不繫。是大力觀一切方法。皆悉言文。言文之相。即非為義。如實之義。不可言說。今者如來云
- [C35]何說法。仏言。我說法者。以汝衆生在生說故。說不可說。是故說之。我所說者。義語非文。衆生說
- [C36]者。文語非義。不言義者。皆是妄語。善男子。是法非因非緣。打智自用故。非動非靜。用性空故。
- [C37]義非有無。空相空故。善男子。若化衆生。令彼衆生觀入是義。入是義者是見如來。舍利弗言。
- [C38]如來義觀不住諸流。心離四禪而超有頂。仏言。如是。何以故。一切法名數。四禪亦如是。若見如來者。
- [C39]如來心自在。常在寂滅處。不出亦不入。內外平等故。善男子。如彼諸禪觀。皆為故想〔想空〕定。是如非
- [C40]復彼。何以故。如觀如實不見觀。如相衆相。相已寂滅。寂滅即如義。如彼想禪定。是動非是禪。何以故。禪
- [C41]性離諸動。非染非所染。非法非影。離諸分別。本義〔利〕義故。善男子。如是觀定。乃名為禪。
- [C42]舍利弗言。不可思議。如來常以如實。而化衆生如是實義。多文廣義。利根衆生乃可修之。鈍
- [C43]根衆生難以措意。云何方便令彼鈍根得入是諦。仏言。鈍根令彼受持一四句偈。即入實諦。一切仏法。撰在一
- [C44]偈中。舍利弗言。云何一四句偈。願為說之。於是尊者。而說偈言。因緣所生義。是義滅非生。
- [C45]滅諸生滅義。是義生非滅。〔27〕法從分別生。還從分別滅。滅諸分別法。是義〔非生〕生非〔滅〕。離識法即空。
- [C46]故從空處說。滅諸生滅法。而住於涅槃。〔28〕一切空寂法。是法寂不空。彼心不空時。是得心不有。
- [C47]法本无有無。自他亦復爾。不始亦不終。成敗則不住。不可思議。不思議聚。七五不生。

- [C48] 八六寂滅。无相空無。有空无有。无空无有。如尊所說。法義皆空。知有非矣。如陽焰水。
- [C49] 知矣非无。如火性生。如是觀者。是人智也。以淨心見仏。以見仏故当生淨土。
- [C50] 性空寂滅時。是法是時現。仏言。由如暗室。若遇明灯。暗即滅矣。一入觀時諸罪悉滅。文殊師利所
- [C51] 說般若波羅蜜經。諸仏世界无量光明。說無尽妙法。教諸菩薩入一相門。得无所畏。善降衆魔。教化
- [C52] 度脫外道邪見。若有衆生。樂声聞者。說声聞乘。樂緣覺者。說緣覺乘。樂世間者。說世間乘。
- [C53] 布施持戒忍辱精進禪定智惠。撰諸衆生。未度者度。未脫者脫。未安者安。未泥洹者。令得泥洹。究
- [C54] 竟菩薩所行。善入諸仏法藏。如是種種功德。皆悉具足。仏告舍利弗。若菩薩摩訶薩。聞此般
- [C55] 若波羅蜜。不驚怖畏。必定当得阿耨多羅三藐三菩提。是善男子善女人。当為大施主。
- [C56] 勝施主。无第一施者。〔29〕当具足戒忍辱精進禪定智惠。当具諸功德。成就相好。自不怖畏究竟般若波羅
- [C57] 蜜。以不可得。无相无為。第一真实不可思議法故。迦葉譬如三十三天人。見波利質多羅樹。初生疤
- [C58] 時。作如是念。此疤不久。必当開披。如是迦葉。比丘比丘尼。優婆塞優婆夷。聞說此深般若波羅蜜
- [C59] 經。生歡喜。亦復如是。迦葉譬如摩尼珠。師見摩尼宝。心生歡喜。亦不假思量。即知真偽。何以
- [C60] 故。以慣見故。譬如学射久就〔修〕即巧。復雖无心。箭發皆中。修般若波羅蜜。亦如是。譬如有人從遠方
- [C61] 來。後有人從彼方來。說彼方流泉浴池。花菓茂盛。勸彼人令交更說。若人聞般若波羅蜜。歡喜信
- [C62] 樂。不於一仏二仏。而種善根。以無量千万仏所種衆善根。得聞般若波羅蜜。信樂受持善男
- [C63] 子。善女人。聞此深般若波羅蜜。不生怖畏。当知是人受仏法印。此法印者。是仏所造。是
- [C64] 仏所貴。何以故。〔以此法印。印无着法故。仏說決定毘尼經〕亦名破壞一切心識〔30〕如是我聞。一時仏在舍
- [C65] 衛国。祇陀林中給孤独園。与大比丘衆千二百五十人。俱菩薩十万人。爾時世尊。如龍王視觀
- [C66] 察大衆。〔觀大衆〕已告諸菩薩。仁者誰能於後〔惡〕世。堪忍護持正法。以諸方便。成就衆生。

- [C67]又舍利弗。師子獸王大吼之時。其余小虫。能「堪」忍不。不也世尊。又如香象。其所負重諸驢
- [C68]騾等。「能」堪忍不。不也世尊。又如积梵所有威德光明色像。貧窮「之人」能堪忍不。不也世尊。又舍利
- [C69]弗。於意云何。金翅鳥王所有勢力。鷲鴒等鳥。能堪忍不。不也世尊。如是舍利弗。菩薩所有
- [C70]其心勇健。善根勢力。所有之罪依出離智。得見諸仏。又優波利。菩薩乘人持不盡護戒。
- [C71]声聞乘人持盡護戒。菩薩乘人持開通戒。声聞乘人持不開通戒。優波利。菩薩乘人以日初
- [C72]分。有所犯戒。初「於」日中分思惟。当得一切種智。菩薩爾時不破戒身。優波利。如来觀察審
- [C73]量為大乘人。不応一向説厭離法。不応一向説離欲法。不応一向説速疾法。常當為説發歛
- [C74]喜心。相応説法。常応向説甚深无雜无悔纏法。常応為説无取无碍空无之法。
- [C75]優波利。如来先説欲難捨離。名為小犯。曠易得離。名為大犯。爾時文殊師利語優波
- [C76]利言。一切諸法。究竟无垢。能自調心。乃能得見究竟毘尼。一切諸法。无有染汚。我不可得乃
- [C77]能得見无悔毘尼。仏告優波利。若有比丘作是思惟。欲斷貪欲。名增上慢。作是思惟。見諸
- [C78]法空。名增上慢。作是思惟。見於无相。名增上慢。是名声聞住增上慢。云何菩薩名為增上慢。仏乘
- [C79]最勝作是思惟。我当於中。發菩提心。名增上慢。行六波羅蜜。当得作仏。作是思惟。名增上慢。
- [C80]般若波羅蜜能得出離。更無余法。而得出離。作是思惟。名增上慢。仏告優波利。若有比丘。思
- [C81]惟諸心時。不着思惟。是名最勝離增上慢。心心所思名為思。若有所思名有縛。若有思惟
- [C82]諸法空。是名着相「則住邪道」凡夫人。若有比丘常念仏。即是非真非正念。將知仏從分別起。実亦
- [C83]不可得。亦无生。是故无思能解脫。須菩提而白仏言「世尊云何応得。云何応住。云何修
- [C84]行。云何発阿耨多羅三藐三菩提。仏告須菩提。諸法自相空。即是三菩提。平等一相。无自
- [C85]无他。不縁境界。覺觀心息。自然悟解。无有分別。是非処所。是人不久成仏。行我行処。到我到

- [C86] 処。見我見処。住我住処。得我得処。坐我坐処。无有煩惱。若境若智。本来不生。本来不滅。本来不來不
- [C87] 去。不一不異。不因不果。非惟无有。亦復无无。不靜不乱。不散不去。諸法无是有。修多羅般若波
- [C88] 羅蜜如是有。如是發心。上求作仏。所以无求為求。下度衆生。所以无度為度。發菩提「薩〓〓」心。有所得
- [C89] 者。即是邪見。邪見之人。永不見仏。断一切智。名為仏智。須菩提白仏言。世尊所說修多羅般若波
- [C90] 羅蜜甚深。何物是。仏言。空相是无相是。无造无作。（无起）无生无滅。无垢无淨。无所有无依止。无住処如虛空。
- [C91] 是修多羅般若波羅蜜。甚深不可思議。不生不滅相。不垢不淨相。不散不乱相。不說不聽相。不言不義相。
- [C92] 不得不失相。何以故。修多羅般若波羅蜜法中。无是諸法相。一切諸法。因緣和合有。皆悉畢竟空。求无处所。覓
- [C93] 不可得。応知是解。色受想行識亦復如是。諸經大乘要抄。〔32〕楞伽經云。〔33〕乃至有所立。一切皆錯乱。
- [C94] 若見於自心。則是无為諍。〔34〕又云。若依止少法。而有少法起。若依止於事。此法即便壞。〔35〕又云。隨言而取義。
- [C95] 建立於諸法。以彼建立故。死墮地獄中。〔36〕又云。理教中求我。是妄垢惡離。離聖道教正理。欲滅或反
- [C96] 增。是外道狂言。智者不応說。〔37〕金剛經云。離「一切」諸相。即名諸仏。〔38〕又云。若以色見我。以音声求我。
- [C97] 是人行邪道。不能見如来。〔39〕思益經云。比丘云何隨仏教。云何隨仏語。若称讚毀辱。其心不動。是
- [C98] 隨仏教。又云。若不依文字語言。是名隨仏語。〔40〕比丘云何應受供養。答言。於法无所取者。云何消供
- [C99] 養。不為世法之所牽者。誰人報仏恩。答言。依法修行者。楞伽經云。〔41〕如是種種相。墮於外道見。
- [C100] 法句經云。若学諸三昧。是動非坐禪。心隨境界流。云何名為定。金剛經三昧經云。我不入三昧。不
- [C101] 住坐禪。是无生禪。〔42〕思益經云。不依止欲界。不住色无色。行如是禪定。
- [C102] 是菩薩遍行。維摩經云。維摩詰訶舍利弗林間宴坐。訶須菩提大迦葉不平等。轉女身經云。
- [C103] 无垢光女訶天帝釈。汝声聞乘人。畏生死染涅槃。決定毘尼經。菩薩乘人。持開通戒。声聞乘人。
- [C104] 持尽遮戒尽護戒。〔43〕藥師經云。仏訶阿難。汝声聞人。如盲如聾。不識无上空義。仏頂經云。

- [C105]訶声聞人。得少為足。仏藏經云。舍利弗。如來在世。三宝一味。我滅度後。分為五部。舍利弗。惡魔於今。
- [C106]由尚隱身。佐助調達。破壞我法僧。如來大智。見在故。弊惡魔衆。不(原作||不)能成其大惡。當來之世。惡魔
- [C107]變身。作沙門形。入於僧中。種種邪說。令多衆生。入於邪見。為說邪法。爾時惡人。為魔所迷(原作||悉)。各執所
- [C108]見。我是彼非。舍利弗。如來予見未來世中。如「C無」是破法事。故說是深經。悉斷惡魔諸所執着。阿難。譬
- [C109]如惡賊於王大臣。不敢自見盜他物者。不自言賊。如是阿難。破戒比丘成就非沙門法。尚不自言我
- [C110]是惡人。況能向余人說自言罪人。阿難。如是經者。破戒比丘隨得聞時。能自降伏則有慚愧。持戒比丘。
- [C111]得大增長。大仏頂經云。即時如來普告大衆。及阿難言。汝等有學緣覺聲聞。今日迴心趣大
- [C112]菩提[||菩薩C]无上妙覺。吾今已說真修行法。汝由未識。修奢摩他。毘婆舍那。微細魔事。魔境見在。
- [C113]汝不能識。洗心非正。落於邪見。或汝蔭魔。或復天魔。或着鬼神。或遭魘魅。心中不明。認賊為
- [C114]子。又復於中。得少為足。如第四禪。無聞比丘。妄言証聖。天報已畢。衰相現前。謗阿羅漢。身遭後有。
- [C115]墮阿鼻獄。所以釈迦如來。伝金欄袈裟。令摩訶迦葉在鷄足山。待弥勒世尊下生分付。今惡世
- [C116]時。学禪者衆。我令達摩祖師。遂伝袈裟。表其法正。令後學者。有其稟承也。法句經云。(44)
- [C117]說諸精進法。名增上慢說。若无增上慢。无善无精進。若起精進心。是妄非精進。若能心不妄。
- [C118]精進无有涯。金剛三昧經云。(45)尊者大覺尊。說生无念法。无念无生心。心常生不滅。
- [C119]維摩經云。不行是菩提。无憶念故。常求无念。実相知恵。楞伽經云。聖者内所証。常住
- [C120]於无念。仏頂經云。阿難汝暫拳心。塵勞先起。又云。見由離見。見不能及。思益經云。
- [C121]云何一切法正。云何一切法邪。若以心分別。一切法邪。若不以心分別。一切法正。无心法中。起心分別。
- [C122]並皆是邪。楞伽經云。見仏闍法。皆是自心分別。不起見者。是名見仏。又云。『歷代法寶記』[T.51,183a]參照。『隨言而

取義。

[C123] 建立於諸法。以「已」C」彼建立故。死墮地獄中。〔46〕又云。〔47〕八九種種識。如海衆波浪。習氣常増上。槃根堅
 [C124] 固依。心隨境界流。如鉄於磁石。如水瀑流尽。波浪即不起。如是意識「」種種「」C」滅。「種種識不生。」「C無し」種種意生
 身。我説為

[C125] 心量。「得无思相法。」「C無し」仏子非声聞。

[C126] 七祖法宝記下卷

註

〔一〕華方田「七祖法宝記下卷題解」〔藏外 2 p.133〕

〔二〕押された印鑑の読解・分析等は衣川賢次氏の知見による。記して謝す。

〔三〕[T.51.179aF.]「柳田禪史 2」

〔四〕なお『楞伽經』等は「又云」として再三引かれるから、それを合せれば九十一回となる。

〔五〕一卷。スタイン五一六、一六一一、一七七六、五九一六。ペリオ二二二五、三七一七。石井光雄旧蔵本(『石井積翠軒文庫善本図録』二〇)が知られる。保唐寺無住(7474)の滅後まもなく弟子によって編せられた。「柳田禪史 2」。

〔六〕『歴代法宝記』[T.51.179a]。

〔七〕『宗論 1 p.5F.』。「無想義 p.15F.」。

〔八〕『西蔵禅 2 p.916F.』。

〔九〕類似する題名としては、古く唐道世の『諸経要集』二〇卷[T.54.11F.]があり、敦煌からも残巻が発見されている[P.295]。別に[S.985]には『大乘要語』の具題があり[T.85.1205]、おそらく隋末唐初の頃のシナ本土における教理整理期にはこうしたテキストが多数製作されたと思われる。

また敦煌本では大正大蔵経卷八五が作成される時に、首欠の[S.79]には『諸経要略文』の仮題がつけられ[T.85.1204cd]、「大谷本」には『菩薩蔵

修道衆經抄』なる仮題がつけられてゐる〔T.85,1197c〕。

⑩ 詳しくは『伝法宝紀并序』一卷。杜拙の編、開元初年(713)製。ペリオ二六二四〔T.85,1291〕、同三八五八、三五五九。研究および訳注は〔柳田禪史 1 p.329ff.〕。

⑪ 〔T.15,782c〕

⑫ 高麗版には、「奉入龍華經一名選択諸法」とある。〔T.15,782c〕

⑬ 以下欠如。『仏藏經』卷上〔T.15,782c〕によれば、「一時仏住王舎城耆闍掘山中。与大比丘僧俱。皆是衆所知識。及無辺大菩薩摩訶薩衆。無量無数。」とあり、次に続くが、欠字数はおよそ十三から十五字程度と考えられるから、この全てが原本に存した可能性は少ない。むしろここは表題のみであったかもしれない。以下『仏藏經』等による補足部分を□に記す。

⑭ 以下、一一〇字を省く。

⑮ 以下、約五〇〇字を省く。

⑯ 以下、約四〇〇字を省く。

⑰ 以下、二四字を省く。

⑱ 以下、一三字を省く。

⑲ 以下、四六字を省く。

⑳ 以下、八四字を省く。

㉑ A本は以下断欠。ほぼ連続してC本に続く。

㉒ 以下欠落。『金剛三昧經』の原文は、「是則無止。亦非無止。何以故。止無止故。解脱菩薩。而白仏言。尊者。若止無止。止即是生。何謂無生。仏言。菩薩当止是生。止已」〔T.9,367a〕とあり、次の引用につながるが、欠字数は約二十六字であるのに対し、経文では四十七字であるから約二十字が省略されているとみなければならぬ。

㉓ 以下『金剛三昧經』無生行品第三よりの抄録。

㉔ 以下、『金剛三昧經』本覺利品第四よりの引用。〔T.9,368bff.〕

- ㉔ 以下『金剛三昧経』入実際品第五からの引用。[T.9.369b ff.]
 ㉕ 以下『金剛三昧経』真性空品第六からの引用。[T.9.370c ff.]
 ㉖ 以下は『金剛三昧経』如来藏品第七よりの引用。『金剛三昧経』[T.9.372a ff.]
 ㉗ 以下『金剛三昧経』総持品第八よりの引用。[T.9.373c]
 ㉘ 経の該当箇所では、「当為大施主。第一施主。勝施主。无等施主。」とある。[T.8.735a]
 ㉙ 『決定毘尼経』には「破壊一切心識」という副題はなく、内容もそれにはそぐわない。この名称は却って『歴代法宝記』に付せられた副題、「破壊一切心伝」に近く、それとの関連性を示唆する。
 ㉚ 『決定毘尼経』は須菩提を対告衆とはしない。また該当箇所も見当たらないので「須菩提」以下は別の經典であろう。ただし原典は不詳。
 ㉛ 以下は『諸経要抄』[T.85.1192c-1197c]の一部共通するが、それよりも全てを『歴代法宝記』[T.51.179a-196b]中に見出せる。
 ㉜ 『歴代法宝記』[T.51.182c ff.]
 ㉝ 以上四句は『諸経要抄』に共通する。[A240]行参照。
 ㉞ 同上[A283]参照。
 ㉟ 同上[A185-6]参照。
 ㊱ 同上[A315-7]参照。
 ㊲ 同上[A114]参照。
 ㊳ 同上[A100-1]参照。
 ㊴ 同上[A246-8]参照。
 ㊵ 『歴代法宝記』[T.51.183a ff.]
 ㊶ [C16]参照。
 ㊷ [C7]参照。
 ㊸ 『歴代法宝記』[T.51.189a ff.]

- (5) 『歴代法皇記』[T.51, 189b#]。また[C2]参照。
(6) [C94-5]参照。
(7) 『歴代法皇記』[T.51, 190a#]参照。同所では「和上引楞伽經云」とする。